



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2023
No.612
8月号

世に処して――

上魂の人のしるしは交はりて

何かはしらに床しき灰めく

小やかな事としいへど忽せに

せぬ人にして大きな事なる

何事も程の一字を守りなば

容易すかるべき此世なりけり



蓮華観世音

解説

「蓮華」は仏教の伝来とともに中国から日本に入ってきた言葉で、仏教においては「尊い仏の悟り」という意味があります。

◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪

ひろげよう仲間の輪

築き上げよう愛と活気あふれる教団を

神言霊

「優しさと奥床しさ」

およそ現代の人間を観る時、もっとも欠除しているものは、優しさと奥床しさであろう。まず茲では本教を主として書いてみるが、たとえば自分の信仰がどれ程進み、身魂がどの位磨けたかを知るには一つの標準があつて、これは左程難しい事ではない。なによりも人と争う事を好まなくなり、優しさが湧き奥床しさが現れる。こういう心と態度になるこそそみがけたとみてよく、この点もつとも信仰の価値を見出すのである。そのようになった人にして一般から好愛され、尊敬され無言の宣伝となるのである。

ところが、今日の世の中を見ると、右のような優しさと奥床しさが余りに欠けている。どこを見ても人に対し粗探し、憎悪、咎めだて等洵に醜い事が目につく。特に現代人の奥床しさなど無さすぎるといっていい。何事も利己一点張りで露呈的で理屈がましく、人から嫌われる事など余り気にかけないのは自由

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

主義が行過ぎ我儘主義になつたと見るほかはない。最も見苦しいのは、他人の事となると暴露的で、排斥主義で、人情の薄い事甚だしい。このような人間が殖えるから社会は暗く、冷たく人生の悲観者が益々殖えるというわけで、近来自殺者の多いのもこんなところに原因があるのではなからうか。故に真の文化社会とは、英国の紳士道や米国の博愛主義の如きを奉ずる人々が殖え、社会道義がよく行われる事によつて気持のよい住みよい社会が生れるのである。そうなつた社会こそこの世の天国としたら、天国は洵に手近いところにあるのである。

又別の面からみる時、今日観光事業が国策上もつとも緊要事と叫ばれているが、成程物的施設も大いに必要ではあるが、外客に好感を与える事は、より以上の必要事であろう。というのは外客に接する場合、優しさ、奥床しさと清潔のこの三つが揃う事で、これこそ一文の金も要らない外客誘致の最も有力なものとなる。そうしてこういう人間を造るその根本条件は何といつても信仰であつて、本教はその方針のもとに邁進しつつあるのである。

(昭和二十五年十月二十五日)

令和五年 天啓祭「おことば」



天啓祭で「おことば」を述べられる
光守様

令和五年天啓祭おめでとうございます。

六月十五日という日は神様のお仕組みと申しまして、大変重大な日です。そして、大切な日であるということをお明主様から私共は教えて頂いております。明主様は「六月十五日という日は、地上天国。すべての人間が幸せな世の中、神様がこれからいよいよ創造しようとしておられる理想の世界を、地上天国誕生祭として全世界の人々が、将来お祝いするようになる日だ」ということを教えてください。

六月十五日という日を一つの節、境といたしまして、霊界が変化して年々、明るくなってだんだん昼の世界、昼の時代に近づいているということも教えて頂いております。明主様は神より天啓を賜りました。

ここで、霊界が昼の時代になる。昼の世界になるということは、私共には深いことはつかませていただきにくい事です。ところで、霊界が明るくなるといことは、霊界のいわば火素が増えるということになります。

ところで、この火素というものはこの宇宙、霊界と現界をひくくめるめたこの宇宙は火素、水素、土素の三つの根源になる元素から成り立っているということをお明主様は教えて下さって

います。その中の火素がだんだん昼の時代になるにつれて、増えてくるということをお仰っておられるのです。

その火素、水素、土素の素はそれぞれいろんな働きがあるのでございます。その火素というものは、どういふ働きをしているかと申しますと、この宇宙の霊界、現界のいろいろな汚れを綺麗にする。浄める働きを、火素は持っているわけです。

火素の一番大きな働きとして、汚いものを綺麗にする。霊界、現界のいろいろな曇りと申しますか、そういう汚いものを綺麗にする働きを持っているのです。つまり、浄化する力を持っているわけです。

この御浄霊もある意味では、この火素の働きの一つの現われでございます。従いまして、火素がだんだん霊界で増えてまいりますと、霊界のいろいろな曇りが浄められる。そういう浄化の力が強くなってくるというわけです。

霊界でそうなりますと、現界にもそれが映し出されますから、現界でのそういう浄化力もだんだん強くなってくるという訳でございます。そして、いろいろな形で現れてくるということをお、教えて頂いているわけです。

目に見えない霊界の世界でだんだんそういう浄化が強くなってくるのです。それがこの現界にもだんだん映し出されてくる。六月十五日が一つの節になって霊界がだんだん明るくなって参りますと、その浄化力が身体の中にある曇り、毒素を早く綺麗にしようとするようになるわけになります。

いろいろな悩み苦しみの素であります曇りが早く浄められて、大変綺麗な世界になる訳ですから、ありが

たいわけです。けれども一面におきましては、私たち自身がやはり今まで、この長い間に曇りというものを背負ってきていますから、そういう曇りを早く浄めていかなければいけないわけになります。

こういう曇りあるいは毒素がだんだん増えてまいりますと、人間は十分に働くことができません。

神様から頂いている使命を十分に果たすことが、できなくなってしまう訳でございます。人間は曇りが多くなってしまうと、本来の健康体にならなければ本当の使命を果たすということとはできないのでございます。

神様は私たち人間の身体にそういう曇り、あるいは毒素というようにない余計なものが溜まってきましたと、浄める働きを助けると申しましか、その時の力になってまいりますのが、火素であるということです。これは私たちの人間の身体だけではありません。この世の中のあらゆる面、霊界、現界ひくくめるまして、この自然の中にもそういう浄化力、浄化する働きを与えてくださっている訳でございます。

神様は同じように人間の身体にも浄化力を与えてくださっています。自然の災害と同じように、人間の病気がだんだんといろいろな新しい病気が増えてきている現在ですけれども、結局人間の身体の方が、命の方が危ないことになってしまっているのが現在でございます。浄化は何とか抑えたいけれども、人間の命の方が持たなくなってしまうというようなことになってしまいうのです。明主様は神様からの伝言としてそうならないように、今のうちに早く自分自身の心を切り替えなさいと、大変強く仰っております。

明主様が仰っておりますように、だんだん霊界の火素が増え、浄化力が

どんどん強くなっていますからその抑えているのが人間の心でございますが、それがだんだんと効かなくなっているのではないかと、私は思っています。最終的には人間の命の方が危ないというようなことになってしまいますから、この天啓祭というのはそういうようなことを、明主様が伝言を神様からされておられて、いろいろと細かいことを神様のことを仰るのですが、人間はどういう訳でございますか、なかなか神様の仰っているようにいっていないところ、浄化力がどんどん強くなってきましたから、いったいどうなるのだと私が申し上げることもなくお分かりのことであろうと、それが六月十五日であるということ、よく六月十五日また、普段でも明主様は信仰の固まっている人にとってよく仰いますよね。

では、信仰の固まっているというのはどういう事なのでしょう。これは明主様が救い主であられることを信じ、自分の罪を心の底より悔い改められた人で、改められない人と立て分けるのが六月十五日なのです。ですからなかなかいふことが、神様が仰るようになっていないことあると思いますので、それを悔い改めて明主様の仰っていることよく素直に聞いて、人間として徹底した信仰をなささいという事なのです。

罪穢とはどういうことなのか、これは神様に背き御心に反した結果、生じた曇りでございます。神様の働きとはどういうことかという、神様が善の魂の人間と、そうでない人間をお立て分けになる。それが六月十五日で、人間というのはすべて善の魂になるように努力していかなければいけないのである。と六月十五日に必ず毎年、毎年、明主様は仰っております。

（中略）

光守様 長野教会感謝祭御訪問同行記 （令和五年六月二十五日）



市瀬里香さんお手製のハーバリウムを山崎美乃ちゃんからプレゼントされる光守様

長野県南部飯田市の幹線道路沿いに立地する昭和四十七年十一月に竣工した鉄筋二階建て延べ百五十坪の長野教会（当時は神成教会上飯田支部）開式には五百六十名の信徒さんが参拝されたそうです。

教団で最も古い歴史を持つこの建物。御神前には生き物のごとく深く尊い思いがしみ込んでいる様です。大先輩から小さな子どもさん迄、一糸乱れぬ式典の進行は入信一年目の私にとつては新鮮であり、魂清まる特別な時間でありました。

長野教会に向かう車中での事です。中央高速道路をそれまで北上を続け、諏訪湖を境に今度は南下、岡谷・伊那・駒ヶ根・松川とかつて明主様信仰が盛んに行われた地域を走りながら、助手席の光守様にお叱りを承知でこんなお話をさせていただきました。

最近では光守様のお供で、ご高齢の信徒さんのご自宅に伺う機会が何度かあり、高齢にかかわらず皆さん等しく二階で生活されています。『御神前が最上階、神様の近くに居たいから本人が一階での生活を拒んでいる』が理由。そんなことを念頭に光守様に言いました。『教会に御参拝したい御高齢の信徒さんがたくさんいますが、教会の長く険しい御神前への階段がその気持ちに萎えさせているのではないですか？』

せめてエレベーターの無い教会では負担

の少ない一階に御神前の分室を設けるわけにはいきませんか？

伊勢・出雲の御神前迄の長い長い玉砂利、金比羅・出羽三山の厳しい階段。高齢者が神様にお会いするのは大変（善光寺は前立本尊のお陰もあり…）信仰と現実の狭間で折り合いをつけながら、時には無用の背徳感に苦しみながら、十分にやって来られた御高齢の信徒さんに明主様もきつと教会で労をねぎらいたいはず。

光守様の手を固く握り長く険しい階段を昇り詰めると、御神前には六月末で百歳になられる福澤きよゑさんのお姿がありました。『ご苦労様です』自然と頭が下がります。ある信徒さんがこんな話をされていました。『きょうで免許証返納です。もう教会に来ることはできません』と。

『問題山積』教会で一番の歴史を持つ荘厳で神秘的な長野教会の御神前で「惟神（かんが）ではないけません。やるだけのことをやりなさい」教え諭されました。

境



51年間の祈りの詰まった厳格なる御神前にて

感謝奉告



会葬されたお孫さんと
ピアノの発表会にて

小池 孝子

〈東京教会〉

娘の遺骨を分骨にて、輝霊光吉宝殿に納斎させていただき誠にありがとうございました。

納骨に至ったのは、第一には故人の願い、思い入れが強かったこと、娘は輝霊光吉宝殿内覧の折、吉宝殿の中に入った瞬間、えっ!!ここが!! 明るく、美しく、温かく、今流に言いますとステキな所で、一般的な墓地と異なり納骨されても居心地の良い所、こんな所に入りたいよねー。という第一印象でした。

しかも説明によりますと、尊くありがたい明主様の御遺髪が納められている如意宝珠蓮華座が千手観音様の前に安置され、明主様にご対面したこともない私達信者にとって、遠い存在の明主様がお近くで、しかも霊界で見守って下さっていて、幸せを感じざるをえませんでした。

第二の理由として、御供養させてもらう側ですが、〇〇家という家の重さです。私は一人子ですか

ら〇〇家を背負っています。(一応本家) 父からは墓守りをしてく

れば良いと言われましたが、私の年令が七十才も中頃になり、その墓へ行くことが困難になり、広い敷地の草取り、落ち葉掃き、大きな墓碑に登って磨くのは、とても大変になって、殊に今年は膝の関節炎も思い悩みました。これから先のことを思うと、父が亡くな

った頃の私の体とは違うので、このことは私の子供達にも言えることで、嫁いだ娘達にお墓の管理をお願いするのは無理があります。跡継ぎのいない我が家としては、輝霊光吉宝殿に納斎できることは、願ってもない選択でした。

娘が亡くなって三十三回忌を迎えるまで、私はとても生きていられません。娘の闘病(歩行しずらくなって二ヶ月位)の間、車椅子での移動で通院や、外での散歩を行った訳ですが、あーあ。このことが逆になって欲しいの。と思いつつこのことを悟られない様に、頑張って車椅子を押しました。

木々の木陰で休憩している折、五月のさわやかな風が心地良く、幸せを感じました。その時の二人の思い出は心にしみついています。

輝霊光吉宝殿の御案内は、数年前から頂いており、その際には家にはお墓があるからと、その案内はいつも端の方に寄せてあったので

すが、これらの理由から納斎させて頂いたこと感謝で一杯です。心の暗みが霽れ本当に良かった。

分骨の際は、近くに住む長女と故人の、甥も駆けつけ家族全員おそこに行い、納斎の準備をしました。納斎は離れた三女にも話し、納斎の日はどうしても行きたいという強い思いがあり、平成元年秋季大祭の納斎日に駆けつけ会葬できました。

納斎式では、光守様がおでましになられて、納斎式が始まりました。会葬者一人一人が御霊前にお花をあげさせて頂きました。祝詞、善言讃詞奏上、神歌奉唱し、光守様より慈愛のおことばを賜り、心の慰めを頂きました。ありがとうございました。

明主様に霊界でも娘をお願いします。という気持ちで祈り、感慨無量でした。式に会葬した家族も同じ思いだった様です。目の前の儀式は、故人がことに大事にしていた姪二人も、幼心に数々の思い出と共に心のどこかに焼きついて、一生忘れることはないと思います。

教団にお願いしている御供養は、安心して全くお任せですが、輝霊光吉宝殿への御参拝の折には同時にお墓参りともなりますので感謝です。

これからも目にみえない霊界での幸せを、大光明様、明主様に、光守様を通してお願いさせていた

だいております。

最後になりましたが、今回の納斎に際して、後押しをして下さいました光守様をはじめ皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

担当教師コメント

宮内 瑠美

小池さんは東京から遠く離れた長野県佐久市にある光導所で、副光導所長としてグループの皆さんのお世話をされていました。

娘さんが御浄化をいただき、大御祭典と一緒に参拝されたときに輝霊光吉宝殿を参拝され、娘さんは大変気にいられ、御帰幽された後その意思を叶えて、分骨による納斎を大御祭典にされました。

御帰幽された律子さんは浄化に入られてから、須玉総本部に何度か御浄霊を頂きに見えましたが、本当に残念でした。お母様にとっては自分より娘が先に亡くなることは、言いようのない思いがあつたとお察しいたしますが、孝子さんは強い明主様信仰があつたが

故、御遺骨を明主様の御遺髪のお許に納斎されることによって、浄化を乗り越え悲しみから救われたと思います。

輝霊光吉宝殿は今後東京本部に移されますが、妹さんは東京近隣にお住いのようなので、納斎式の時のように家族皆さんで御供養の参拝をされることを願います。

トピックス

第三回奥津城参拝と鋸山登山



箱根『奥津城』での御参拝

六月十二日に第三回鋸山登山を実施しました。今回は全国の布教拠点からも参加者を募り、体力的に優しいコースを企画致しました。

東京教会、長岡教会信徒さんの参加で出発しました。梅雨に入り天候が不安定で、東京本部周辺は生憎の雨天でした。天気予報では何とか大丈夫であろうと思ったのですが、当

午後は鋸山周辺の雨が止むかもしれないという事で、午前中に箱根の神仙郷の『明主様奥津城』に御参拝し、午後に鋸山を散策するという贅沢フルコースを決定することになった。箱根に行くことになったのは、数日前に光守様が『奥津城』に御参拝をされ、天啓祭にて御発表された神秘体験の影響があつたからです。

八時半に東京本部を出発し箱根に向かいました。神仙郷の所在する強羅周辺も雨でしたが、霞掛かった山中の景色は風情があり、『奥津城』はそれがとても神秘的な情景とな



雨の中を十州一覽台に辿り着きました

その後精鋭で山頂展望台に向かいました。どちらも天候により遠方を望むことは出来ませんでした。初めて若しくは久しぶりに訪れた鋸山に皆様喜ばれていました。今回は、大仏広場や日本寺本堂跡地には行かずそのまま帰路につきました。雨天で、しかも箱根・鋸山の二大聖地を一気に巡るという初めてのコースでしたが、御守護を頂き無事に行つて参りました。ありがとうございました。

『貴重な五分間』

六月二十五日、長野教会に伺うため、自宅を五時に出発した。すがすがしい朝だ。信徒さんに逢える。心がおどる。しかし、おわびのためである。

朝曇り道路は日曜日のためか、何台かの車と一緒に走り出したスイスイと。

教会の入口に、主に男の信徒さんが待って下さり、教会内に女性の方々がニコニコほほえんで嬉しく中に入った。嬉しい、とても嬉しい、信徒さんの顔、顔がたくさん待って下さっていらした。

御神殿の開け放された窓から、時より入ってくる木曾の山々の緑のエキスをたっぷり吸いこんだ湿った風が心地よい。

約四十名の信徒さんと共に待つ開式までの五分、あまりにも静寂さは、一瞬皆である世に入りこんだかのような世界の錯覚に落ちいり「ハッ」として、皆さんの顔を確かめる。現界にいることを確認初めてのこと。

最前列には、今月で百歳になる福沢きよゑさんが鎮座。とてもなつかしい方々が風格を持って静かに目をつぶっている。何人かの小さい可愛いお子さんも固く目をつぶり力みながらその時を待つ。きつと親御さん、まわりの信徒さんからのよい躰でしょう。目の前にいる山寄教会長の子供の頃を思い出す。「良い躰がされましたね。明憲さん」



光守様と生花

光守の思い

ボーン、ボーン、ボーン……十回時計の音が、開始の時を知らせる。沢山の信徒さんの祈りの詰まった神聖なる場所での貴重な五分間でした。

福沢きよゑさん、貴重な場所、百歳になられたあなたとまた『天津祝詞、善言讃詞』を奏上できたこと、本当に良かったわ。

光守の願い

ここから「思い」と違いますが、「光守の願い」でございます。

明主様から参拝について、たとえば今月は農繁期で、どうも参拝が少ないようですとおそばの方々が申し上げると『ダメではないか、そういうときほど来なければいけないのに』と仰せられる。これは逆にいえば、日常生活を超えた行為に踏み出すことにより、よりいっそう日常の中で聖なるものに近づくことができる。その結果、得ることの出来るものを、出来るだけ多くつかませてあげたいという、愛情の表現だと理解しています。私達人間は、生きている時、非常に卑しい俗なる部分を心の中に秘められている、人間を越えた崇高な聖なるものと、ふたつをもっています。

しかし、人間は常に日常生活の中に埋没して、自らを見失っているから、人間が、人間らしく生きるためには、聖なる空間へ出入りして、自分をリフレッシュする必要があります。

つまり、日常生活との切断、離脱です。「教会に参拝する」「浄霊をいただく」ということなのです。明主様は、参拝には厳しい要求をされています。長野教会に伺い、いろいろな方々とお逢いできて、よい勉強も、よい体験もあり、本当に有難うございました。

八月一日は感慨深い教団創立五十一周年記念祭。今までの苦勞を振りかえりながら、この教団誕生日を共に祝い合ひましょう。

岡田茂吉の自然農法

水田除草と稲の管理

五月末に田植え、その後六月、七月にかけて水田内の除草作業を定期的に行いました。

除草作業は例年同様、手作業で水田内表層の土を掻き、削り取るようにしながら攪拌し、細かい雑草を水面に浮かび上がらせます。小さいうちに取り除かないと大きく成長してからでは取り切れなくなってしまう。

その第一回目の作業は、田植え後十日間以上経った六月四日～五日に行いました。暫く期間を空けた理由は、田植え後に苗がしっかりと地に根を張らせるためです。根が張っていない状態で水田に入ると苗が抜けてしまいます。

今年は苗の根の成長がとても良かったため、昨年よりも根付が良好でしたが、六月二日～三日の午前中にかけて全国的に非常に強い雨で、少し稲がへたつてしま、今後の成長に不安を感じていました。幸いその後は徐々に成長して、七月初めの最終除草作業時には元気な姿となりました。

水田除草は約一週間に一回の間隔で行い、最終的には六月に三回、七月初めに一回の計四回行いました。稲栽培の中で特に重労働ですが、信徒さんお手伝いをいただき今年も無事に作業が完了しました。ご協力いただき誠に感謝申し上げます。



水田除草作業

霊界お浄め活動

東京教会 令和五年五月一日（月）

越谷光導所長の小島洋子さんからご相談があり、埼玉県越谷市にある東武鉄道伊勢崎線の大袋駅で四月五日に男性が特急にはねられ死亡した事故があり、霊界お浄めをさせていただきたいという事で、小島さんと専従者一名の計二名で、五月一日祈願祭後に参りました。

事前に小島さんは駅職員へ連絡を取り、事故の詳細な現場確認と霊界お浄めをすることを伝え、その許可を得ました。

また、別に調べてみたところ大袋駅は過去人身事故が何度も発生している駅のようで、霊界お浄めの必要性を感じました。

お浄め後に駅職員に報告と教団リーフレットを渡しました。



東武鉄道大袋駅ホーム

トピックス 2

モリアオガエルの卵（準絶滅危惧種）

富士宮光導所は木々に囲まれた小山の上にポツンと佇んでいます。ここを開かれた先生が作られたのでしようか、小さな池があつて、池の淵に松が植えています。その松に今年も六月にモリアオガエルが産卵しました。天然記念物に指定されている県もある珍しいカエルです。この時期は姿を見せず祭

典中に「カララ、カララ」と鳴き声が聞こえてきます。富士宮光導所のマスコットです。



モリアオガエルの卵

教団創立五十一周年記念祭

おめでとうございます。

令和五年九月二十四日（日）十時

秋季大祭・秋のみたままつり 挙行
救いの光教団 東京本部・各拠点